



Beam GUI

↓ ビームフォーミングの様子を可視化



提供価値

高速大容量

低遅延

多数端末接続

実証実験/PoC段階

- 複数のユーザを効率的に収容可能なデジタルビームフォーミング技術を検証し、その有効性を明らかにします。
- 様々な環境で安定した高速大容量通信の実現を目指します。

概要

- デジタルビームフォーミングは周波数やユーザ端末ごとに適切なビームを形成することができるため、高速大容量・多数端末接続を特徴とする5Gを実現するための技術として期待されている。
- 3GPPで策定された5G NRのSA (Stand Alone) に準拠したsub-6GHz (帯域幅100MHz) 装置にデジタルビームフォーミングを実装し、屋外伝送実験を実施した。
- デジタルビームフォーミングの各種アルゴリズムによる違いを直感的に把握するため、GUI上でビームの可視化を実現している。

コラボレーションパートナー

Ericssonとの共同実験として、3GPPで策定された5G標準仕様に準拠した装置を用い伝送実験を実施。

